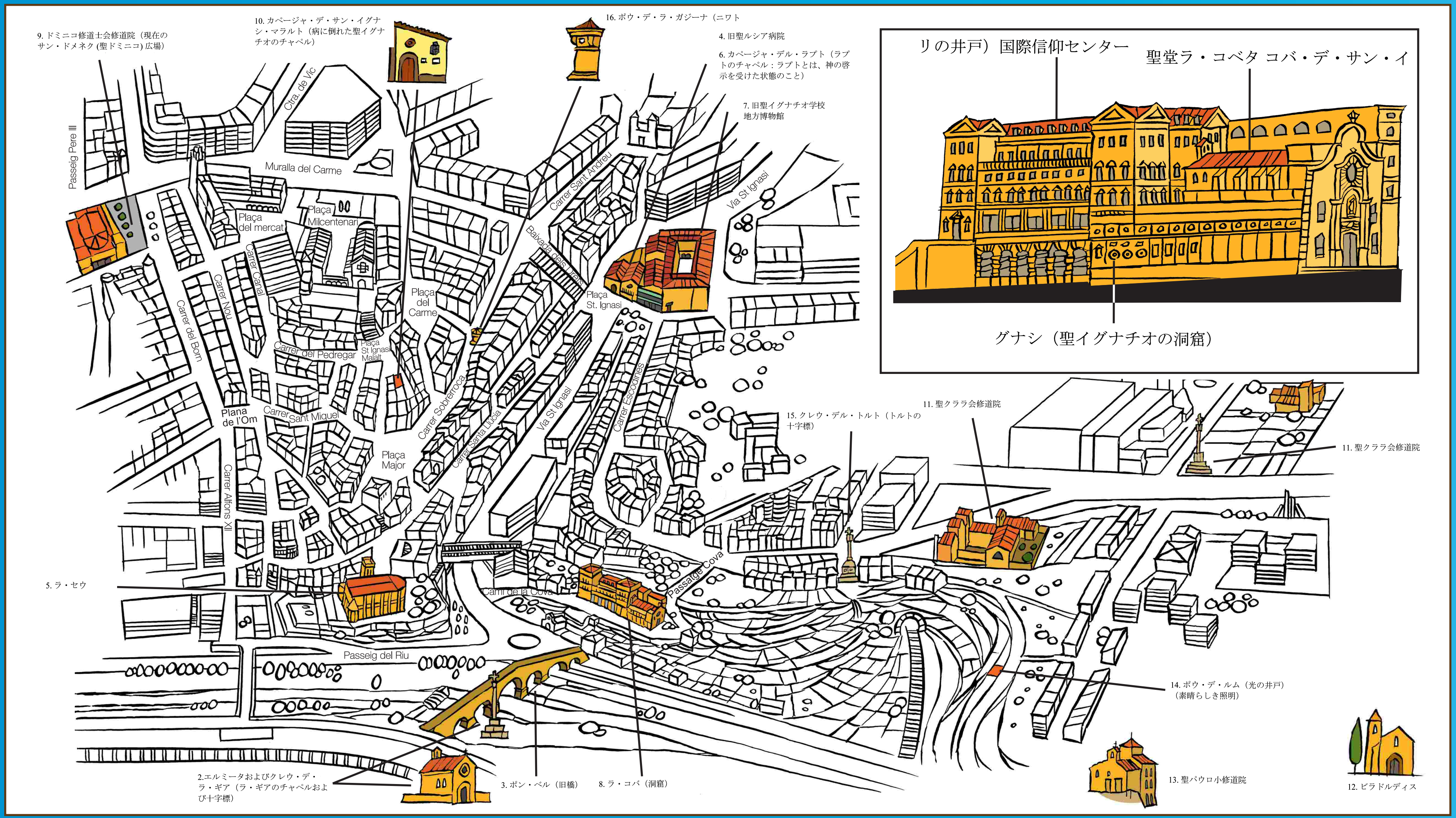
1522年「ぼろを纏った男」、マンレサでのイグナチオ・デ・ロヨラ

マンレサの各所

コバ・デ・サン・イグナシ（聖イグナシオの洞窟）内の様子



DISSEY GRÀFIC / IL·LUSTRACIÓ: JAUME GUBIANAS 2015_1

イグナチオ・デ・ロヨラとは

イニゴ・ロペス・デ・レカルデは、1491年バスク地方の小さな村アスペイティアで貴族の家に生まれました。　　　（アビラ）県のアレバロで教育を受けた後、パンプローナを守る戦いで脚に重傷を負うまで、優秀な外交官および兵士として、カスティーリャ王に仕えました。

療養生活中の読書の影響により、人生の転機を迎えることとなり、エルサレムへの巡礼に旅立つことを決意し、バルセロナの港から船に乗ることにしました。

その旅の途中でモンセラットの聖マリア修道院に立ち寄りました。そこからマンレサへと向かい、そこで、彼の精神上の変化において最も重要な時期となった 11 カ月間を過ごしました。彼自身の言葉によると、そこで受けた神秘的・精神的な体験により、彼の最も重要な著書である「霊操」を書くに至ったということです。最終的にバルセロナから船に乗り、聖地エルサレムへと旅立ちました。

帰郷すると、まずはバルセロナで勉強を始め、その後アルカラ・デ・エナーレスやサラマンカでも勉学に励みました。宗教裁判によって幾度か投獄された後、パリに拠点を移しました。

パリでも勉強を続け、10人の仲間たちと、1年のうちに聖地エルサレムへと出発し、宣教師となることを目指してグループを組織しました。そして、それがどうしても叶わない場合には、教皇の命令に服従しようと考えました。司祭に叙階されると、どうしてもエルサレムに行くことが叶わないことから、教皇パウルス3世の命を受けることにしました。1540年にイエズス会が設立されると、イグナチオは初代総長に選ばれ、1556年に65歳で死去するまでその地位を務めました。

1609年にパウルス5世によって列福され、1622年に列聖されています。

業績

マンレサでの経験に基づいて、著書「霊操」を書きました。これは、神のご意志を追い求める方法について著したもので、30日間の黙想と瞑想を行うことでこれが得られるものと説明しています。この期間に自らの人生を見直し、求道者にイエス・キリストの行き方に従って、団結と約束に準じた行き方をするよう勧めています。

また、新たな宗派であるイエズス会を設立しました。この新たな宗派の誓いには、服従、清貧、禁欲に加え、教皇に対する服従が加えられました。

その他、教育と布教活動においても素晴らしい成果を挙げています。特にアメリカやアジアにおいて、貧しい人びとの救いとなりました。

現在では、イエズス会は世界で最も会員数の多い宗派となっています。イエズス会の会員は高い教育を受けているため、多岐にわたって非常に困難な状況での奉仕に耐えられる人物を輩出しています。

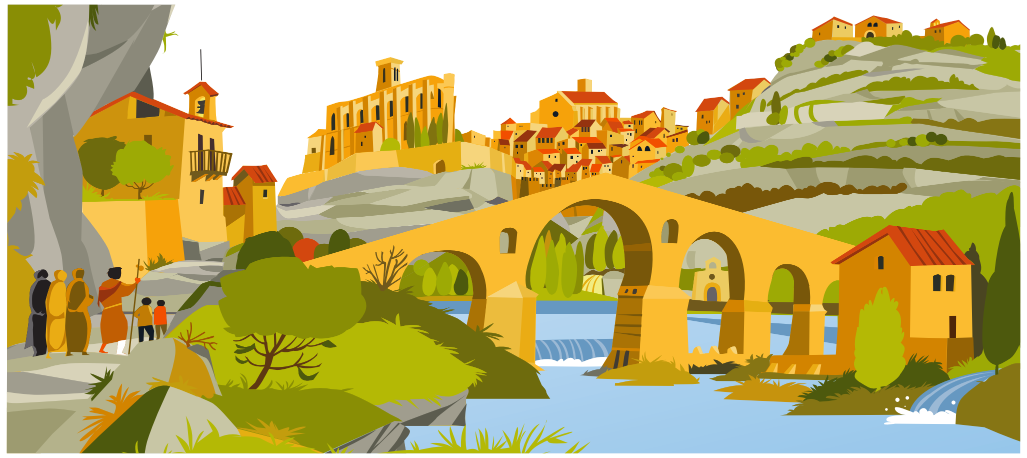
COVA SANT IGNASI MANRESA Fundació
ICL Iberia Where needs take us
Iberpotash
CX CatalunyaCaixa
Ajuntament de Manresa
Cambra de Comerç de Manresa
Gestamp

auca.covamanresa.cat

1522 年「ぼろを纏った男」、マンレサでのイグナチオ・デ・ロヨラ

COVA SANT IGNASI MANRESA

1.モンセラット
眠れない一晩を過ごした翌日、イグナチオ・デ・ロヨラは、自分が身に着けていたものを貧しい人にあげ、マンレサへと向かいました。
1522 年 3 月 25 日の火曜日のことでした。



2. チャペルおよびクレウ・デ・ラ・ギア（ラ・ギアのチャペルおよび十字標）
祈祷のためにエルミータ・デ・ラ・ギア（ラ・ギアのチャペル）に立ち寄りました。
その日は祝日であったため、巡礼が行われていました。

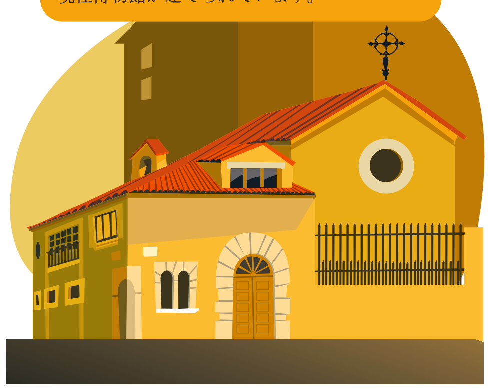
3. ポン・ベル（旧橋）
ポン・ベルを渡り、カページャ・デ・サン・マルク（聖マルコスのチャペル）の目の前を見上げたところに、要塞に囲まれた中世時代のマンレサがありました。

4. 旧聖ルシア病院
要塞の外にある貧しい人びとのための病院である聖ルシア病院に迎え入れられました。
ここで多くの時間を過ごし、貧しい人びとや病人を助けました。ぼろを纏い、身なりなど、まったく構うことがありませんでした。
人びとは彼のことを**「ぼろを纏った男」**と呼んでいました。
現在、そこにはカページャ・デル・ラプト（ラプトのチャペル）が建てられています。

5. ラ・セウ
宗教儀式に参加する際には、ラ・セウまで通いました。そこでは、アルバの聖母に祈りました。
施しを受け、それを最も貧しい人びとに分け与えました。

エル・ラプト（ラプトとは、神の啓示を受けた状態のこと）
ある晩、病院のチャペルで気を失い、「神の啓示」を受け、8 日 8 晩地面で身動き一つせずに過ごしました。その時に将来やるべきことを理解したのです。

6. カページャ・デル・ラプト（ラプトのチャペル）および
7. 旧聖イグナチオ学校（現在の博物館）
聖ルシア病院およびそのチャペルは、スペイン市民戦争中の 1936 年に破壊されてしまいました。
現在そこには、壊された病院の石を使ってカページャ・デル・ラプトが建てられています。
その後方にある旧聖イグナチオ学校跡地には、現在博物館が建てられています。



8.ラ・コバ（洞窟）
瞑想し、祈り、著作を行うために過ごした洞窟の 1 つが、カルデネル川のほとりにあります。
現在、ここにはラ・コバ教会と国際信仰センターが建てられています。

9. ドミニコ修道士会修道院
当時、現在のサン・ドメネク（聖ドミニコ）広場には、ドミニコ修道士会修道院が建っており、そこで何週間か過ごしました。ここでは、疑問がわき、あまりに意気消沈してしまったために、病気にかかってしまいました。

修道院は 19 世紀になくなり、そこには音楽院の劇場が建てられました。殉教者聖ペテロ教会は、スペイン市民戦争中の 1936 年に破壊されてしまいました。

10.カページャ・デ・サン・イグナシ・マラルト（病に倒れた聖イグナチオのチャペル）
アミガント家は、いつもスピタレットと呼ばれる建物に病気の人々を集め、助けていたお金持ちの一家でした。
2 度にわたってイグナチオ・デ・ロヨラを迎え入れ、看病しています。これは、ソブレロカ 通り 30 番地に家を持っていたカニェルス家も行ったことでした。

このオスピタレットこそが、現在のカページャ・デ・サン・イグナシ・マラルトで、マヨール広場のすぐそばにあるカルメン教会の階段の終わりに建てられています。

11. 聖クララ会修道院、クレウ・デ・ラ・クーリャ（ラ・クーリャの十字標）
12. ビラドルディス 13. 聖パウロ小修道院
ビラドルディスは良く訪れた場所です。そこに出かけて行く際には、聖クララ会修道院の前に座って修道女たちの歌声を聞いてから、クレウ・デ・ラ・クーリャに向かって主要道路をビラドルディスにあるサルット教会まで歩いて行きました。そこで祈りや瞑想にふけったり、幾晩も夜通し救いを求めたりしました。
また、カルデネル川のほとりにあるシトー会聖パウロ小修道院を訪れることもありました。聖ルシア病院の管理も行っていた小修道院長は、イグナチオの師でもありました。

14. ポウ・デ・ルムとエクシミア・イルストラシオ・デル・カルデネル（光の井戸とカルデネル川における素晴らしき照明）
聖パウロ小修道院に向かう途中で「カルデネル川における素晴らしき照明」が起こりました。
彼自身の説明によると、超自然的に突然ひらめきが起こり、これによって多くのことが解明し、終に今後進むべき道が理解できるようになったと言います。
これらは、クレウ・デル・トルト（トルトの十字標）近くの「ポウ・デ・ルム」で起こったようで、この現象が起きた後に感謝を捧げる目的でこの場所を訪れています。

15.ラ・カサとクレウ・デル・トルト（トルトの十字標）
街の境界を示すこの十字標の脇には、聖イグナチオをよく迎え入れていた家、「ラ・カサ」があり、そこでは暖かい一杯のコンソメが振る舞われ、その時に使われたお椀が今もなお保存されています。1523 年の 2 月の初めにイグナチオ・デ・ロヨラがマンレサを発った際には、マルセテスからポント・デ・ビロマラ（ビロマラ橋）に向けて出発したのでした。

16. エル・ポウ・デ・ラ・ガジーナ（ニワトリの井戸）
伝説
ソブレロカ通りにある井戸に、1602 年に 1 羽のニワトリが落ちてしまい、溺れ死んでしまいました。
そのニワトリの世話をしていた女の子は、継母に怒られるのではないかと心配になり、聖イグナチオにニワトリを生き返らしてほしいと頼みました。
すると、伝説によれば、ニワトリは息を吹き返したということです。